

聖徳スタイル

vol.11

英語学習の新しいアプローチ、CALLシステムで楽しく学ぶ。



聖徳高等学校では、英語の運用能力をより立体的に修得するため、2006年度よりCALL学習を導入しました。この『CALL』とは、Computer Assisted Language Learningの略で、パソコンによる学習支援システムです。今回は、高校2年生の進学クラスの授業にお邪魔しました。取材時はまだ3回目の授業。インターネットの「英語学習支援コンソーシアム」というコンテンツを利用

して、リスニングとスピーキングを中心に学んでいました。授業終了後、生徒たちに感想を聞いてみました。

CALL学習のどんな点が良いと思いますか？

「ネイティブの発音を気軽に聞くことができるので、すごく勉強になります」

「何度でもマウスのクリックで簡単に聞き直せますし、それぞれ、自分のペースで勉強ができます」

「他の授業とスタイルが違うのでメリハリがあります」

「英語が苦手な人でも、楽しく取り組めると思います」

「家でも勉強できるので、復習がしやすいです」

CALL学習を始めて、どんな変化がありましたか？

「今まで『話せない』と思って、ネイティブの先生に話しかけられなかったのですが、話しかけてみようという気持ちになってきました」

「テレビの英語番組を見るのが楽しくなりました」

「ネイティブの先生のお話が、今までより聞き取りやすくなった気がします」

「CALLの授業は、パソコンに向かっていただけではなくて、友達と声を出してスクリプトを読み合わせたりするのですが、それで自分の弱点が解ってきました」



CALL授業の様子

CALL学習への希望について

「もっといろんな機能があるらしいので、早く試してみたいです」

まだCALL学習がスタートしてから日が浅い状況ですが、生徒たちの言葉からは、確実に英語学習への意欲が高まっている様子を感じられました。



お話を聞かせてくれたみなさん。

このCALL学習の狙いと効果について、もう一步掘り下げて、英語科の小林順子先生にお話を伺いました。

CALL学習の特長と狙いを教えてください

「英語学習には古くは『LL』という学習支援がありました。これは音声のリスニングを基本にスピーキングの練習までを行うというものでした。一方『CALL』では、原稿を見ながらリスニングをしたり、聞き取ってから書き取る（入力する）ことも、学習成果の確認のために各自が小テストを行ったり、あるいは自分の作った英文を正しい発音で読み上げさせることもできます。



つまり「読む・聞く」というインプットも、「書く・話す」というアウトプットも、バランス良く、立体的に学んでいけるのが大きな特長ですね。“その日に学んだことが、その日のうちにより深くわかる”という授業が実現できます。これらが、生徒の進度の個人差に対応できるのも大きなメリットです」

今後どんな発展的な活用を考えていますか？

「利点は多いのですが、CALLシステムはあくまで『学習支援』です。語学はやはり“パソコン対人”ではなく、“人対人”で学ぶことが望ましいため、友達同士で読み合いをさせたり、ロールプレイを取り入れ会話させたいと思っています。“教員対生徒”“生徒対生徒”でのコミュニケーションを大切にしたい授業を心がけています。

また、生徒たちがパソコン操作に慣れてきたら、例えばインターネットで調べ物をして、プレゼンテーション原稿を作り、正しい発音を聞きながら練習してみんなの前で発表する、というような発展的な学習も実施したいですね。

いま、このCALL教室は5・6年生（高校2・3年生）の選択授業「異文化理解」でも利用しています。映画や音楽を通して英語に触れ、練習ができるのです。こうした活用方法もさらに研究しながら、いずれは放課後に教室を全生徒に開放して、生徒が自主的に英語を学習して楽しむことができるようにしたいと考えています」

聖徳の英語教育は、このCALL学習という強力な「学習支援」の仕組みを得て、一步一步着実に進化し続けていくと実感できるお話でした。